

全国教頭研究大会報告

第50回全国公立学校教頭研究大会・愛媛大会が、大会主題「生きる力をはぐくむ豊かな学校をめざして～命かがやかせ 夢ひらく たくましい子どもの育成～」のもと、7月31日（木）から8月1日（金）の2日間、愛媛県松山市を会場として2700名が参加して行われた。

開会式では、松本零士氏（漫画家）の「子どもたちの夢が未来をつくる」と題した記念講演や、松山市立高浜小学校の「水軍太鼓」の披露があった。

以下、分科会の内容を報告する。

1, 分科会（教育条件整備に関する課題）

7月31日（木）、参加者321名が37班に分かれ、3つの実践報告に対して情報交換や研究討議を行った。

2, 実践報告及び討議内容

①「安心・安全な環境づくりと教頭のかかわり」

～PTA・関係団体との連携を通して～（愛媛県）

- ・伊予地区教頭会では、平成18年度から学校・保護者・地域社会がどのように連携し、関わっていけばよいかについて研究をすすめてきた。
- ・アンケートの分析等による課題の把握、校内での安全確保に対する取り組み、登下校の安全確保に対する取り組み、危機管理意識の保持の研究を行った。
- ・教頭は、PTAや関係機関との連携を密にすることが大切である。

②「開かれた学校づくりにおける教頭のかかわり」

～学校行事における保護者や地域とのつながりを通して～（徳島県）

- ・学校、家庭、地域がそれぞれ教育機能を認識し、子どもの学び・育ちを支える行事の計画・運営が大切である。
- ・教頭はリーダーシップを発揮するとともに、PTAや地域との連携により、多様性と開放性に富んだ広がりのある学校行事の実現をめざさなければいけない。

③「地域等の人材を活用した特色ある学校づくりと、教頭としての役割」

～地域・関係団体との連携をキーワードとして～（奈良県）

- ・各学校において、学校や地域の特性を生かした特色ある学校づくりの取り組みの情報収集と整理を行った。
- ・地域に開かれた学校としての機能が果たしているか、学校評価につなぐというPDCAのマネジメントシステムの構築が大切である。

3, 最後に

各県各校の実情や教育事情を知ることができ、有意義な研究大会であった。今後の実践に生かすことで、全国教頭研究大会に参加できたことへの感謝と報告とします。

（学校運営研究部会 八巻 登）